

## ごあいさつ

現在、日本では多文化・多民族化が急速に進展しています。この新宿区に目をやつても韓国人ニューカマーが大きな存在感を持っています。しかし、同時に地域の人々との接点は必ずしも多くなく、「顔の見える関係」という地域作りの基盤が弱いといわれることもあります。

そこで、本プロジェクトでは、地域の韓国人ニューカマー100人にインタビューを行い、その内容を自由に共有できるようにします。

このような活動を通して、新宿区にいるすべての人たちが、かけがえのない人生の一時期を一緒に生きているという実感が持てるようになること目指しています。

2009年11月1日  
研究代表  
渡辺幸倫

# 新宿のニューカマー韓国人の ライフヒストリー記録集の作成

「顔の見える地域作り」のための基礎作業

期間：2009年11月から  
2011年10月

トヨタ財団2009年度研究助成  
(D09-R-0422)

この研究に関するお問い合わせは  
〒252-0383 神奈川県相模原市南区文京2-1-1  
10号館406研究室 渡辺幸倫  
TEL: (042)749-2312  
Email: watanabe-y@star.sagami-wu.ac.jp  
<http://koreannewcomersintokyo.web.officelive.com>

# プロジェクトの概要

多文化・多民族化する日本の地域社会で、住民同士のつながりをどのように作っていくのかが重要な課題となっています。特に新宿区では韓国人ニューカマーが大きな存在感を持っているものの、地域の人々との接点は必ずしも多くなく、「顔の見える関係」という地域作りの基盤が弱いといわれています。

本プロジェクトでは100人の韓国人ニューカマーに一人一時間程度のライフヒストリー・インタビューを行い、その内容を本人の同意のもと、定期的に印刷物・ホームページで公開し自由に共有できるようにします。重要な社会の構成員としてインタビューされる人々の地域社会への所属意識向上が期待できるとともに、受け入れ社会側には「地域にいる『韓国人』も、かけがえのない人生の一時期を、同じ地域空間を共有しながら生きている」という気づきが可能となるのではないかでしょうか。

このプロジェクトの理論的背景には、人生を語り／聞くことで世界観を作っていくという物語（ナラティブ）理論があります。本プロジェクトは、インタビューを通して、関係する全ての人が自己を肯定しながら社会を理解できるようになることを目指しています。このような人と地域のつながりを作る手がかりを得ることが本プロジェクトの目標です。

# スケジュール

2009年

11月準備

12月パイロット調査

2010年

1月インタビュー開始

5月成果公開

(ホームページ、印刷物など)

9月成果公開

(ホームページ、印刷物など)

10月中間報告会・中間報告書発行

2011年

3月成果公開

(ホームページ、印刷物など)

7月成果公開

(ホームページ、印刷物など)

10月最終報告会・最終報告書発行

# プロジェクトメンバー

渡辺 幸倫（わたなべ・ゆきのり）相模女子大学学芸学部講師／社会教育・言語教育

若園 雄志郎（わかぞの・ゆうしろう）北海道大学 アイヌ・先住民研究センター 博士研究員／多文化教育、少数民族の教育

川村 千鶴子（かわむら・ちづこ）大東文化大学環境創造学部教授／移民政策、多文化社会論

宣 元錫（そん・うおんそく）中央大学総合政策学部兼任講師／社会政策、労働問題、移民政策

藤田ラウンド 幸世（ふじたらうんど・さちよ）国際基督教大学教育研究所研究員／社会言語学・バイリンガル教育

河合 優子（かわい・ゆうこ）東海大学文学部准教授／異文化コミュニケーション・メディア論

李 坪鉉（い・ほひょん）早稲田大学教育・総合科学学院非常勤講師、和洋女子大学人文学部非常勤講師／社会教育・文化間移動者の文化変容

武田 里子（たけだ・さとこ）明星大学非常勤講師・放送大学東京文京学習センター非常勤講師／地域社会学・多文化社会論

堀内 康史（ほりうち・やすし）大東文化大学環境創造学部非常勤講師／社会学

吳 世蓮（お・せよん）早稲田大学大学院教育学研究科／生涯教育、多文化教育の日韓比較